

●●● 財政再建計画の進捗状況をお知らせします ●●●

○安定した財政運営を目指して

豊能町では、平成22年3月に「財政再建計画」を策定し、平成22年度から26年度までの5年間で20億円以上の収支改善を目標とした改革に取り組んでいます。

○当初の収支改善目標は達成できる見込みだが……

「財政再建計画」は、平成22年3月に策定後、昨年4月号の本誌に進捗状況を掲載し住民の皆さんにお知らせしたところです。

計画の中には、当初の計画どおりに進まないものや計画自体を見直したものもありますが、多くの方々からご意見をいただく中で、住民の皆さんとの協議や相談を重ねながら着実に実行しているところです。

平成24年4月時点の収支改善見込み額は5年間で20億6千7百万円となっています。これは、昨年4月の見込み額18億8千万円を上回る額で、このまま各項目を進めることができれば、当初の目標である20億円以上の収支改善を、達成できる見込みです。

しかし、本町の町税収入は年々減少を続けており、今後もこの傾向が続きます。他の収入増加策についても検討していますが、即効的な効果が見込めないのが現状です。また、本町は財源の多くを地方交付税に依存していますが、国の財政状況の悪化等により、地方財政制度の根本的な改正が行われ、町の財源が大幅に減少する可能性も否定できません。

このような状況の中、将来を見据え安定した財政運営ができるよう、引き続き歳出削減による財政の健全化を図り、住民の皆さまが満足のできる施策の推進に向けて取り組んでいきますので、ご理解、ご協力をいただきますようお願いいたします。

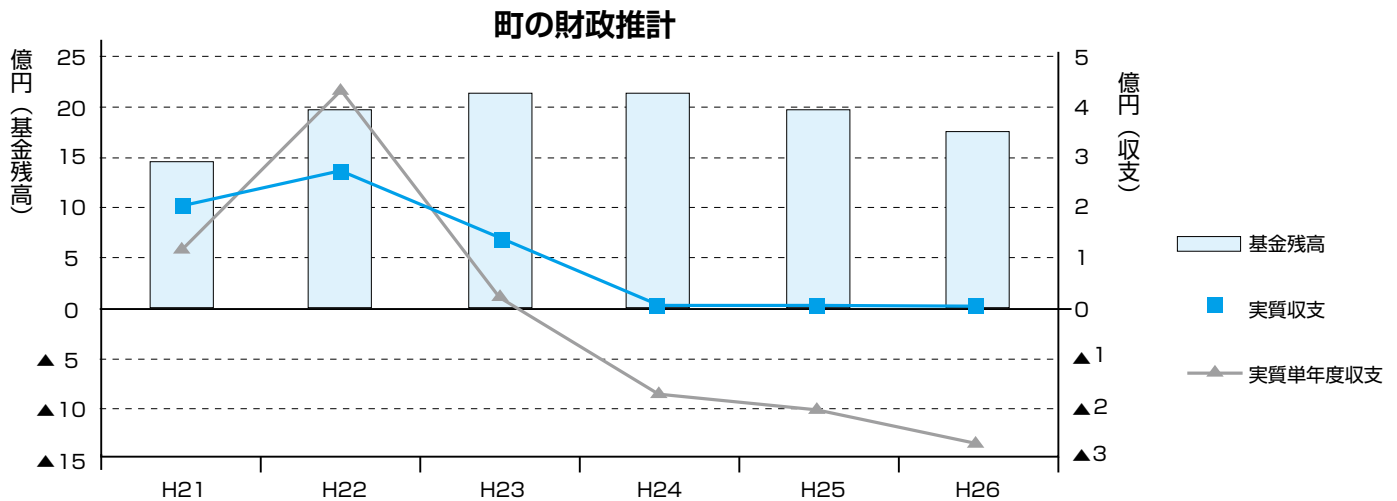
財政再建計画(平成22年度～26年度)の進捗状況

項目	当初計画(平成22年3月)	進捗状況(平成24年4月現在)
人件費	22年4月から5年間、職員給与を5%削減。	実施済み
	22年4月から非常勤職員報酬を見直し。	実施済み
	22年4月から任期中、特別職等の給与を(町長17%、副町長・教育長7%)削減。	実施済み(ただし副町長は50%削減)
	管理職手当の削減(部長・次長級15%、課長級10%)を継続。	実施済み
	職員数を削減(21年度当初比、26年度までに30人減)。再任用制度を凍結。	計画を前倒しして実施中 22年度から実施済み
地デジ放送整備費助成	町独自の助成は行わない。	実施済み
巡回バス	22年4月から料金の減免を廃止。運行は23年4月からの廃止も含め全面見直し。バス車両の更新を見送り。	22年4月から減免廃止済み。バス車両の更新見送り。 23年7月から東地区巡回、西地区巡回を休止。 社会実験として、①新東西線は希望ヶ丘～ときわ台駅とし、箕面森町に停車。②東地区にはデマンドタクシーを導入。 23年12月から新光風台循環と東ときわ台循環を統合した新路線バスに補助金を交付。
本庁受付業務	23年度から業務委託を廃止し、職員が行う。	実施済み
豊悠プラザと保健センター	23年4月統合。	25年4月から豊悠プラザの機能を保健センターと旧吉川幼稚園に移設予定。豊悠プラザは民間活力を導入し、有効活用。
国保診療所	医療機器の更新を見送り、合理化に向け検討。	医療機器の更新を見送り。合理化策は未定。
ふれあい文化センターと老人憩の家	23年4月統合。	当分の間、統合せず併存し、あり方を検討。ふれあい文化センター分館は23年3月末に廃止済み。
農村婦人の家	23年3月末に廃止。	25年3月末に廃止。地元に移管。23年度に施設改修済み。
清掃事務所	整備を見送り。既存施設を活用。	整備を見送り。23年4月、現事務所(吉川支所2階)に環境課事務所と清掃事務所を統合済み。
ごみ収集の有料化	23年4月実施。	23年4月から粗大ごみのみ有料化を実施済み。 可燃・不燃ごみは早期に有料化。
光風台駅前エスカレーター	設備の更新を見送り、毎年度修繕費を計上。26年度末までに廃止。	設備の更新を見送り、必要の都度修繕を行う。部品供給とフルメンテナンスが可能な限り運転を継続。
上水道事業への繰出金	22年度から減額。	実施済み
下水道事業への繰出金	22年度から減額。	実施済み
消防団ポンプ車の更新	毎年の更新をやめ、隔年に1台更新。	実施中
東地区幼保一元化	23年4月から双葉保育所と東能勢幼稚園を統合して、東能勢幼稚園敷地内に一元化し、こども園を設置。	実施済み
西地区幼稚園統合	23年4月から吉川幼稚園と光風台幼稚園を統合して、光風台幼稚園敷地内に設置。	実施済み
社会教育関係施設の運営協議会	22年度から社会教育委員会に一元化。	実施済み
公民館自主事業・図書館自主事業	22年度から館の事業予算を生涯学習課の経常予算に一元化することによって、総事業費を削減。	実施済み
吉川公民館	23年3月末に廃止。	実施済み。地元に移管済み。24年度施設改修予定。
図書館	コンピュータシステムの更新を見送り。	国の交付金を活用し、コンピュータシステムを更新(23年度)。
ユーベルホール	22年度は自主事業を削減。23年3月末休止。舞台装置等の改修を見送り。	22年度は自主事業を削減。23年度は全体の運営経費を圧縮するとともに、自主事業を連携協力事業に再編して存続。24年度以降は運営方法を毎年検証。
青少年総合スポーツセンター	体育館、プールの改修を見送り。プールは22年度から廃止し、学校のプールを活用。	実施済み。ただし、学校ではなく、シートスのプールを活用。
シートス指定管理料	23年度から利用料金を見直し、指定管理料を削減。	24年度から利用料金の見直し等により指定管理料を削減。
吉川支所	身体障害者用便所の改修を見送り。	実施済み
駐輪場	光風台駐輪場の塗装を見送り。妙見口、ときわ台、光風台とも、合理化に向け検討。	光風台駐輪場の塗装を見送り。合理化策は未定。

▶問合せ = 財政課 ☎ 739-3432

●●● 豊能町の財政推計(平成24年3月現在) ●●●

財政再建計画期間中(平成22年度から26年度の5年間)について、財政再建計画の進捗状況(右ページに掲載)を反映し、町の財政推計を作成しました。財政推計により分かる今後の町の財政状況は、以下のとおりです。



○基金残高

23年度までは、地方交付税や国・府の交付金等の増額により、基金の残高が増えています。今後は減少傾向となります。

22、23年度は、臨時ボーナスがたくさん出たため、家計のやりくりがしやすく、貯金もできたのですが、24年度以降は給料(町税等の自主財源)がどんどん減っていくので、貯金をおろし続けて生活を賄う…といったイメージです。

○実質収支

町の実質収支は、24年度以降0で推移しています。数値上は0ですが、基金を取り崩して歳出の補填に充てることにより、収支ゼロを維持しています。

家計にあてはめると、給料・その他だけでは支出が賄えないので、貯金をおろすことにより、かろうじてプラスマイナスゼロを維持している状態です。

一般的に地方公共団体の黒字・赤字とは、実質収支の額により判断されます。

○実質単年度収支

実質単年度収支は、24年度以降赤字となっています。

基金等を取り崩さない場合、年間の収支が赤字となることを示しています。

家計では、貯金をおろしたり、前年からの繰越金を収入として計算せずに、単純にその年の収入額から支出額を引いた金額を表したイメージです。(支出額より収入額が少なければマイナスとなります)

このように、豊能町のご数年の決算状況は、数値上改善傾向にあります。長期的に安定した財政運営を行うには、引き続き財政の健全化を図る必要があることが分かります。

▶問合せ=財政課 ☎739-3432

■ 光風台駅前エスカレーターは平成31年度末まで稼働します。

財政再建計画の進捗状況の表(右ページ参照)にあるように、光風台駅前のエスカレーターは部品の供給とフルメンテナンスが可能な限り運転を続けます。

メーカー系列のメンテナンス会社によると、エスカレーターの計画耐用年数は設置から25年間で、光風台駅前の機種の場合、設置が平成2年7月ですので、平成27年7月には計画耐用年数を迎えます。当該機種は平成6年9月まで製造されており、部品は機種の製造打ち切りからおよそ20年間をめぐりに製造が続くとのことですから、平成26年8月ごろまでは部品は製造されることとなります。さらに部品のストックは部品の製造終了から5年～10年間で、部品がある限りフルメンテナンスは可能とのこと。つまり、少なくとも平成31年8月ごろまではフルメンテナンスが出来るということが判明しました。このため町は、廃止期限を平成26年度末から平成31年度末まで5年間延長したものです。ただし、部品の供給とフルメンテナンスが不可能となった場合には、安全性が確保できないことから、平成31年度末までの運転は不可能となりますので、その時点でエスカレーターは廃止することとなります。

エスカレーターの稼働可能年数についての確認作業が不十分であったため、このようなことになり申し訳ありませんでした。